

美しい日本、 私たちのまちの環境を守る。



現状

まちの環境の“いま”

我が国では、高度経済成長期以降の短期間で急速な都市化が進められてきた結果、都市空間や生活環境の価値が軽視された無秩序な開発が進められてきました。まちは様々な問題を抱えています。

都市空間

■まちの景観が破壊されています
建築物の高さや色彩の不統一など無秩序な開発により周辺環境と調和しない統一感のない景観が目立っています。また、網の目のように張り巡らされた電線や電柱、派手な色彩の屋外看板の氾らん、上空を走る高速道路等まちの景観はますます乱雑さを増しています。

■まちが暮らしにくくなっています
狭くて危ない通学路や段差のある歩道など私たち人間にとってますますまちは暮らしにくくなっています。コンクリートで固められた河川護岸やアスファルト舗装などにより、人だけでなく生物も暮らしにくくなっています。



電線や屋外看板の氾らん

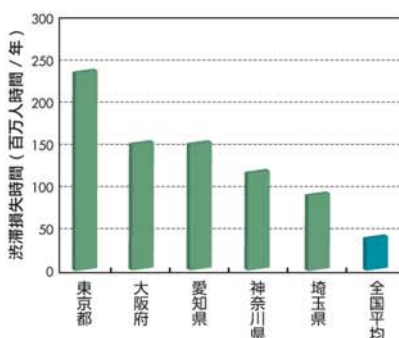


狭くて危ない通学路

生活環境

■交通渋滞が解消されていません

自動車による交通渋滞問題が解消されないままになっており、渋滞による損失時間は全国で「年間約33億人時間」、一人当たり「年間約26時間」と言われています。特に大都市圏での渋滞は著しい状況です。



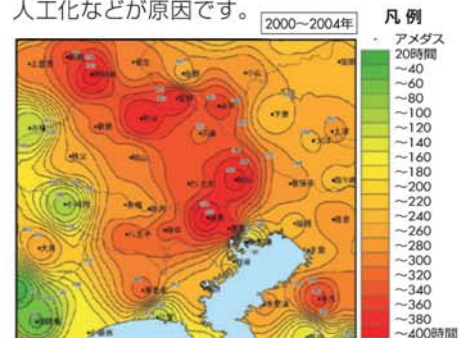
都道府県別の渋滞損失時間(H18)
【資料】国土交通省



渋滞する都市内道路

■夏の暑さが増しています

都市の気温が年々上昇し続けており、過ごしにくい日が続いています。これがヒートアイランド現象であり、家庭や事業所からの人工排熱の増加、緑地や水辺の減少、地表面の人工化などが原因です。



関東地方における30℃を超えた延べ時間数の広がり
(5年間の年間平均時間数) 【出典】環境省 ホームページ

まちの魅力を高め、『人』を主体としたまちづくりの推進

保全・調和

無秩序に開発されたまちに、美しさと暮らしやすさを創り・取り戻すために、法律や基準類など様々なルールづくりが行われています。

美しい街並みの保全・創出へ

2003年に『美しい国づくり政策大綱』が発表され、今後の社会資本整備では地域の魅力を維持、向上、創造していくことの必要性が強調されました。それを受け2004年6月に『景観緑三法』が全面施行されました。

景観緑三法による具体的な整備イメージ

- 歴史的街並みや里山など景観の保全
- 周辺景観と調和した建築物等のデザイン
- 都市公園等における緑の充実
- 街路樹、植栽、照明、サインなど公共施設のデザイン
- 屋外広告等の適切な運営の確保



住みやすいまちへ

道路や河川、公園、公共建築物といった公共施設の整備においては、高齢者や障害者だけでなく、あらゆる人々に利用しやすいユニバーサルデザインの考えを取り入れた住みよいまちづくりが行われています。

こうした住みよいまちづくりは人々の活動を促し、賑わいを創出するなどまちの活性化にもつながります。

ユニバーサルデザインとは

利用者の立場を考え、以下の7原則に基づきデザインを行う。

7つの原則

- | | |
|-----------|------------|
| 1) 公平性 | 5) 安全性 |
| 2) 柔軟性 | 6) 効率性 |
| 3) 単純性 | 7) スペースの確保 |
| 4) わかりやすさ | |

➔ できるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインすること



生活スタイルを転換し、『人』や『地球』にやさしいまちづくりの推進

再生・創出

失われつつあるまちの環境を取り戻すために、様々な創意工夫を生かした新しいまちづくりの取り組みが行われています。

環境に関心を持つまちへ

ヨーロッパを中心に「カーフリーデー」というイベントが行われています。

この日、まちからは自動車が消え、徒歩や自転車、公共交通によって人々は移動します。

交通渋滞や交通騒音など、自動車の利用がまちの環境に与える影響に関心を持ち、望ましい都市交通のあり方を考えるための活動です。

日本でもノーマイカーデーや歩行者天国など、さまざまな取り組みが行われています。



歩行者天国：大都市の繁華街への車両乗り入れを禁止

便利でエコロジカルなまちへ

自動車による移動を前提としたまちから、徒歩や自転車、公共交通を中心としたまちへと転換し、すべての人に便利で、地球環境にも優しいまちづくりが進められています。



エコな乗り物（ペロタクシー）



歩行者と自転車の通行帯分離



次世代型路面電車システム（LRT）

快適なまちへ

まちの気温を下げるため、緑化や保水性舗装の推進など、さまざまな取り組みが行われています。また、私たち一人一人が意識を高め、クールビズや打ち水、自転車による買い物や通勤を行うなど、空調や自動車に頼りきった生活を改めることも、ヒートアイランド対策の大きな柱のひとつです。



屋上緑化



保水性舗装



緑・水・風のネットワーク化

【出典】中部ニュービジネス協議会



建設コンサルタントの役割

繋がり・継承

私たち建設コンサルタントは、これまでの都市づくり、街づくりにおいて、行政や民間デベロッパー等からの委託を受けて企画構想、計画、設計、監理などを行ってきました。これからも、社会資本整備の専門家として、またコーディネーター、サポーターとして、住民のみなさんからのまちの環境に対する生の声を取り入れ、生活者の視点に立って、魅力あるまちづくりを推進していきます。

都市空間のコーディネーター

私たちが暮らす「まち」は、道路や橋、建築物、看板、植物など様々なモノや色で溢れています。私たち建設コンサルタントは、都市空間のクオリティーを向上させ、「地域らしい美しい景観」と「潤いのある豊かな生活」を創出したいと願っています。そのためには、安全・安心を確保するためのモノであってもバラバラ

に造ったのでは周辺景観との調和は図れません。ファッションにも色やかたちなどデザインのコーディネートが必要なように、魅力的な美しい景観の創出にはコーディネートが欠かせません。**「都市空間のデザインをコーディネートする」**。それは、これからの時代、私たち建設コンサルタントが果たすべき重要な役割の一つです。



木々の緑に囲まれた空間



歴史と調和した空間



池と建物が調和したビル街

まちづくりのサポーター

暮らしやすいまちづくりのためには、住民のみなさん、行政の担当がお互いの立場や考え方を正しく理解し、協力しあうことが大切です。私たち建設コンサルタントは、参加型まちづくりの

サポーターとして、分かりやすい情報提供、みなさんが積極的に参加できる場づくり、環境学習などを支援することで、まちの環境を守り続けます。



ワークショップの運営

シリーズ

社会資本整備のあり方を考える

環境を守るための取り組み

- 地球温暖化対策、私たちの挑戦
- 豊かな川と海を次世代へ、私たちの取り組み
- 美しい日本、私たちのまちの環境を守る

発行 社団法人 建設コンサルタンツ協会
URL: <http://www.jcca.or.jp/>
〒102-0075 東京都千代田区三番町1番地(KY三番町ビル)
TEL:03-3239-7992 FAX:03-3239-1869

編集 社会資本整備のあり方検討WG
問合せ 社団法人 建設コンサルタンツ協会 インフラストラクチャー研究所
発行日 平成21年4月1日

